

令和8年度 第1回学校運営協議会 議事録

時：令和8年6月24日（水）15時～16時40分

於：本校会議室

議事：①校長挨拶

②委員委嘱・自己紹介

③会長選出・会長挨拶

④本校の取組について

＊インクルーシブ教育実践推進校

＊教育課程研究開発（シチズンシップ教育）

⑤学校評価部会

＊令和7年度学校評価報告書実施結果について

＊令和8年度学校評価報告書目標設定について

⑥地域連携部会

＊本年度の地域連携について

⑦ その他（意見交換）

記録

①校長挨拶

委員の皆様には、今年も年間を通じて様々な提言をお願いしたい。

②委員委嘱・自己紹介

出席委員に委嘱状を手交。

校長、新井委員、北村委員、田中委員、岩間委員挨拶

副校長川島、教頭梁取、総括教諭川口、縄野、金澤、梅本、山崎挨拶

③会長選出・会長挨拶

新井委員を会長に選出 部活、探究、安全対応など多方面の課題を共有していきたい

④本校の取組について（川口）

インクルーシブ教育実践推進校としての取組みについて、スライドを使用して説明。

教育目標の「敬愛」は自他を大切にという願いが込められている。

本校は相互理解を深め多様性を尊重する学校である。

目から、耳からの情報を提供するため、掲示物を工夫したり、ホワイトボードなどを利用して、共通の話題提供をしている。

定期的に相互理解教育を実施している。

特別募集の生徒だけでなく城郷生全員を丁寧に支援していくように考えている。見てわかる障害もあればわからない障害もある。

チームティーチング、支援担任、支援リーダー、習熟度別クラス、リソースルームなどを活用して支援をしている。

進路は就職に限らず進学も含め多様。

シチズンシップ教育を口頭で説明。

2期目 1期目は横浜に愛着をとという目標で実施。

2期目はアクションを起こせたか、地域の課題起こしや、地域で行動する生徒の取組を

校内で知ってもらうことを目標に実施。

新井委員

投票率の低さは子供が新聞を見ないからではないか。

今の子供たちはネットで好きなものだけ見る。

新聞は同じ面に様々な情報が出ている。

インクルーシブの理念はわかるが実践は非常に難しいのではないか。

川口

ネットに関してはご指摘の通り。

特別募集の生徒も、あくまで全日制普通科の枠内で教育活動を行っている。

特別募集の生徒が授業を理解できるかと言われればできないかもしれないが、インクルーシブの学校ができた理由は学習へのアクセスを保障すること。従来学力検査が壁となって学習へのアクセスができなかった生徒の学習へのアクセスができるようになった。そう考えると、授業内容は理解できない可能性もある。

学校生活は授業理解だけでなく部活や行事など多様なものがある。

⑤学校評価部会 副校長より資料説明

担当総括教諭より詳細を説明

川口：ユニバーサルデザイン化を推進している。

梅本：現在は生徒の情報源がスマートフォンになっている。スマートフォンやAIをどう味方にするかが課題となる。

教頭：全体的には穏やかな生徒が多いが、個々を見てきめ細かく生徒を指導していく必要がある。生徒向けの講話や集会を通じ実践していきたい。

縄野：行事や部活動は自己実現のためのツール。生徒と教員で話し合いを重ねながら、ただ「やりたいやりたい」でなく、主体的に行事や部活動に関わってもらいたい。

山崎：探究の時間を通じて1・2年生のうちから総合型選抜へ対応できるように指導している。進路先が多岐に渡っているのが本校の特徴、早い段階から対応できるようにしていきたい。3年生には昼休みも使いながら指導している。比較的受け身の生徒が多い中でいかに有用な情報を提供するかが課題である。

金澤：今の城郷を知ってもらう、興味を持ってもらうためにはホームページの充実が大切である。その一方、専門的スキルを持った担当者が必要な部分もあり、苦悩している。地域の資源・人材発掘をしたいと考えており、NPOや大学との連携は効果があったと感じている。

副校長：ユニバーサルデザインにより、すべての生徒が学習しやすい環境を整備することを目標にしている。不祥事が県としては根絶できていないかもしれないが、少なくとも自校からは出さないようにしたい。そのためには、職員間のコミュニケーションを大事にするとともに当事者意識を高めることが必要で、今年から、管理職だけが話すのではなく、担当グループの教員が担当する事故防止の研修会を実施した。

松岡：生活グループは校内での安心安全を保障することを目標としている。現代社会において、高校生は被害者にもなるし加害者にもなりうる。城郷生は被害者にも加害者にもしないという心構えで指導にあたりたい。

新井：スマートフォンやAIは今後人間と共存していかなければならない存在。問題の見方や考えをスマートフォンやAIと違った見方を人が提供していかなければならないと考えている。

部活のあり方が、従来通りとはいかないのではないかと思う一方、部活は学校への帰属意識を高めるために必要なのではないかと考える。

年内の学力型の入試でも面接が求められる状況なのはご存じのことと思うので高校でも準備をお願いしたい。

ホームページだけでなく生の声で中学生や保護者に魅力をアピールすることも必要なのではないだろうか。

不祥事に関しては、ミスをするのが責められるものではなくミスを隠すことが許されない。

北村：防災などでは連携ができるのではないだろうか。

質問：インクルーシブは何校あるのか？

川口：県内県立 18 校。

田中：生徒は穏やかに見える。

部活の入部率を上げるとなると昨今の状況下、なかなか厳しいのでは。企業でも残業を減らさなければならぬ中で、教員の働き方はどうなのか？

岩間：夏休みの実習を連携してやっている。手帳を持っている生徒がいざ就職の段になると困っている様子が伺える。本人というより保護者は何を求めてインクルーシブの学校を選んできているのか。普通の高校生活を送ってほしいというならインクルーシブ校に入るのは正解だと思うが、別のことを期待しているとミスマッチが起きるのではないだろうか。

⑥地域連携部会 川口：資料に沿って令和 8 年度の計画説明

縄野：8 年度の計画説明

山崎：8 年度の計画説明

田中：どこが通学路になっているのか？

松岡：駅から来る生徒は通称猫坂を上ってくる。環状 2 号から来る生徒は急坂から来る生徒もいれば、迂回して登ってくる生徒もいる。こちらの道を使いなさいとは指導していない。

⑦その他

各委員：4 月 30 日に遡り目標を承認

今後の予定第 2 回協議会 9 月 19 日（文化祭）書面開催の可能性もあり

40 周年記念式典 11 月 24 日

第 3 回協議会 3 月 16 日

校長挨拶：40 周年記念式典を実施する。50 周年は更に盛大に実施する予定。今年、学校では 40 という数字を意識している。行える部活動時間は週 11 時間となるようだ。